

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■151■

このコラムに執筆できるという貴重な機会。歴代の日銀前橋支店長が

つないできたバトンを次代につなぐため、皆さんに楽しんでいただけるよう努めます。

私は北海道出身で東京勤務が長く、この6月から初めての群馬暮らしとなった。その割に浅からぬ縁を感じている。群馬の旧名は上野国、私の名字と読みは違えど字は同じ。少年時代、歴史ゲームが大好きで、どの大名でプレイしようか全国のマップを見渡していた時に、自分の名字の国があることを知った。偶然の

群馬とわたし

通貨に信用を刻印する

一致ではあるが、今回の赴任を運命的なものとも感じている。

当地と縁深い小栗上野介忠順が主人公の大河ドラマ「逆賊の幕臣」が、

来年放送されることもそう思わせる一因だ。私が愛してやまない司馬遼太郎は、彼を「明治の父」の1人と呼ぶ。その名にふさわしく、日露戦争の勝利につながった造船所の建設など、近代化に向けたさまざまな施策を打ち出したほか、中央銀行

の設立も構想していたとされる。

先駆的業績には、物価への影響を考慮し、裏付けのない不換紙幣の発行に反対し、日本最初の中央政権による兌換紙幣（金や銀などの裏付け資産と交換可能）の発行を実現したことも挙げられる。日銀による兌換紙幣

の発行開始（1885年）より20年ほど前に、通貨価値が信用によつて支えられていることを深く理解していたことが分かる。

そんな小栗上野介でも、ペリー来航を契機とする1859年の開港以降に生じた物価高騰には苦慮したようだ。勘定奉

行、今という財務大臣として対策を講じたものの、開港から大政奉還の1867年までの物価は

平均で年間3割ほど上がった。この背景には、金銀の相対価格が国内外で異なるために生じた開港後の金の海外流出を抑えようと、1両当たりの純金量を3分の1とした

る。物価高騰は上州の世直し一揆の原因にもなった。

白川方明・元日銀総裁は近著で「通貨に信用を刻印する」ために求められることとして「歴史に学び歴史を伝える努力」を挙げている。幕末と現代には共通点が少ないとも言えるが、国際情勢の激変が物価に大きな影響を及ぼす構図は同じだ。

どんな難題にも不可能とさじを投げることなく立ち向かった小栗上野介のように真摯に職責を果たしてまいります。



上野 陽一（うのの・よういち）

1979年生まれ。北海道出身。一橋大商学研究科修士課程修了。2003年日本銀行入行。名古屋支店営業課長などを経て、26年6月から現職。